

6月20日 コリントの信徒への手紙8章1~15節 今日の説教から  
説教題：「賜物を用いて愛を示そう」

皆さまは、自分の「得意なこと」を知っていますか。例えば、「字を書くのがきれい」であるとか、「運動神経がいい」であるとか、そういう目で見えるものから、「細かいところに気が付くことが出来る」「一度通った道を忘れない」といった形に残らないようなものなど、様々な得意なことがあると思います。また逆に、自分の「不得意」なこと、「苦手」なことを知っていますでしょうか。例えば、私のように「字をきれいに書くのが苦手」という技術的なものや、「長時間本が読めなくなった」などの年齢や体調によって得手不得手が変わることもあると思います。

今日から説教要旨の裏面に今日の聖書箇所を載せていますが、本日はその下に「自分の得意・苦手」なことなどを記入する欄を作りました。よかつたら、少しだけ書いてみてください。今日はそれを見ながら聖書の言葉を聞いていきたいと思います。

今日の聖書箇所は、マケドニアに滞在していたパウロがコリントの信徒に対して、マケドニアの信徒たちの信仰のすばらしさ、特に迫害と貧しさの中でも施しを続けた彼らの「奉仕の業」についての言及から始まっています。彼らが神様から多くの恵みを受け、豊かに満たされているという自覚があるからこそ惜しみなく奉仕の業を行うことが出来る、という事が語られています。神様からの恵みとは、私たち一人一人の得意分野としての「賜物」であり、同時にイエス様が私たちに教えてくれている「信仰、言葉、知識、あらゆる熱心」、また私たちが神様から受け取っている「愛」によって私たちは生かされて、日々の生活を送り、教会を支えることが出来ています。

しかし、私たちは多くの賜物を受け取っていながら、自分の足りない部分に目を奪われてしまうことがあります。例えば、私たちが祈る中でよく使われる「私たちは誘惑に弱い小さなものです」という言葉があります。もちろん、誘惑に負けてしまった場合は反省する必要があります。しかし、私たちは悔い改める祈りによって、神様に向き直り、神様を頼りにすることが出来るのです。私たちが誘惑に弱いことは確かに短所で、しかし神様の言葉によって、イエス様の導きによって、私たちはその足りない部分を補つてもらうことが出来るのです。神様を頼りにすることが出来るのです。

私たちは、できないことを無理にできるようにしなさい、と神様に言われているわけではありません。そうでなければ、神様は私たちのことを画一的なロボットのように、全員が同じことが出来るように作ったのではないでしょうか。そうではなく、私たち一人一人が、長所があり短所がある、誰かに誇ることが出来る部分があれば誰かに手伝ってもらわないといけない部分がある、そのような「個性ある存在」として神様に作られたのは、私たち一人一人がその賜物を生かして、互いに支えあって生きることが出来るように、という神様の思いがあったからだと思います。そして何より、私たち人間だけではどうにもできない、そんな罪深い部分が私たちに備わっているのは、私たちが素直に神様のことを頼りにし、神様に従うことが出来るように、という神様の思いが現れているのかもしれません。賜物を用いて誰かを助けることが愛の業なら、自分の足りない部分を素直に認めて、誰かを頼ることもまた一つの愛の業なのです。私たちに愛の示し方を教えてくれている神様に感謝を捧げつつ、今週一週間の、これから歩みをお互いに支えながら歩んでいきましょう。